



10月に入り、朝晩は肌寒さを感じる日も出てきました。夏の疲れが出ていませんか？体調に気をつけ、実りの多い秋にしたいものです。

秋の夜長には読書はいかがですか？新着の本も続々入荷しています。ぜひ図書館をのぞきにきてください。

## 10月27日～11月9日まで秋の読書週間です。

今年の標語は「この一冊に、ありがとう」です。

終戦の2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。いまの10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）になったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらいきっかけとなることを願っています。



常盤中では今年も図書委員を中心に「秋の読書週間」を行います。11月1日には図書委員による、絵本の読み聞かせがあります。楽しみにしてください。

10月27日から11月9日の間は **1人5冊まで・2週間貸出**可能とします！いつもは読めない長編や、読んだことのないジャンルの本に挑戦してみてください。



### 《ピブリオバトルチャンプ本紹介》

- 1組 Kさん「世界の歴史人物大事典」
- 2組 Aさん「都会のトム&トーヤ」
- 3組 Mさん「恋に至る病」
- 4組 Iさん「20歳のソウル」
- 5組 Mさん「あの夏が飽和する」

1年生が国語の授業でピブリオバトルをしました。各クラスのチャンプ本を図書館で展示しています。ぜひ読んでみてください。（入荷手配中のものあり）

- 6組 Kさん「崩れる脳を抱きしめて」
- 7組 Hさん「マチルダは小さな大天才」
- 8組 Wさん「100年越しの君に恋を唄う」

## 《新着図書紹介》

「その本は」 (又吉直樹・ヨシタケシンスケ 著)

本の好きな王様が、2人の男を城に呼び、「世界中をまわって「めずらしい本」の話を書いてきてくれ」と言った。旅に出た2人の男は…。又吉直樹とヨシタケシンスケによる、笑えて泣けて胸を打たれる、本にまつわる物語。

「腹を割ったら血が出るだけさ」 (住野よる 著)

本心を閉じ込めながら毎日を過ごす茜寧の前に現れたのは、小説に登場するくあい(仮)にそっくりな人物だった。“愛されたい”に囚われた女子高生、他者の失敗を探し求める少年。それぞれの踏み出す一歩が響き合う青春群像劇。

「掬えば手には」(瀬尾まいこ 著)

中学3年のときに、人の心を読めるという特殊な能力に気づいた大学生の匠。ところが、バイト先で出会った常盤さんは、匠に心を開いてくれなくて…。「幸福な食卓」「そして、バトンは渡された」に連なる、究極に優しい物語。

「汝、星のごとく」(瓜良ゆう 著)

瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた權。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していき…。

「夜に星を放つ」(窪美澄 著)

もう何も失いたくない。でもまた人と関わりたいと思った-。「真夜中のアボカド」「銀紙色のアンタレス」など、心の揺らぎが輝きを放つ全5編を収録した短編集。第167回直木賞受賞作。

「おいしいごはんが食べられますように」(高瀬隼子 著)

職場でそこそこうまくやっている二谷、皆が守りたくなるような存在で料理上手な芦川、仕事できてがんだり屋の押尾。心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。第167回芥川賞受賞作。



「東大ナゾトレ THE BEST」(松丸亮吾 監修)

「鎌倉幕府と北条義時見るだけノート」

(小和田哲男 監修)

「くまのプーさん ささやかだけど大切にすること」

(キャサリン・ハプカ 著)

「やさかした時にどうするか」(畑村洋太郎 著)

「嫌いな教科を好きになる方法、教えてください！」

(河出書房新社 編)

「自分の強みの見つけかた」(垣内俊哉 著)

「災害とトイレ 緊急事態に備えた対応」

(日本トイレ協会 編)

「食品ロスはなぜ減らないの？」(小林富雄 著)

「もし、水がなくなるとどうなるの？」

(竹内薫 編)

「図解でわかる14歳から考える民主主義」

(インフォビジュアル研究所 著)

「ぼくたちのスープ運動」(ベン・デイヴィス 著)

「「オードリー・タン」の誕生」(石崎洋司 著)



**本の返し忘れはないですか？毎月月末に未返却の本がある人に督促状を送ります。督促状をもらったら、すぐに返却してください。**

